

7 信貴山城跡 [史跡]

[所在地] 生駒郡平群町信貴山 1308 番地の 1

[所有者] 朝護孫子寺

[時代] 室町時代

[概要]

信貴山城は、奈良盆地北西に位置する信貴山頂に占地し、大和と河内を眼下に望む要衝の地である。文献上の初見は、『経覚私要鈔』の長祿 4 (1460) 年の記事とされるが、この時期の信貴山城は、一時的な砦のようなものであったと考えられる。

本格的な築城は、天文 5 (1536) 年に木沢長政が飯盛城から拠点に移した（『細川両家記』）こととされるが、同 11 年に長政が太平寺の戦いで敗死すると、信貴山城も落城した。永祿 2 (1559) 年に松永久秀は大和へ侵攻し、翌年、信貴山城を改修して居城とした。久秀は、天正 5 (1577) 年に織田信長へ叛旗を翻し、信貴山城に籠城したが「天主」を自焼して自害した。松永氏没落後は、廃城になったとされる。

城の縄張りは雄岳を主郭とし、その北側に放射状に展開する郭群があり、南側は雌岳に郭が造成されるが、城郭関連遺構はほとんど見られない。雄岳山頂には「天主」があったとされるが、遺構は確認できない。北側の郭群は良好に遺構が残存しており、主郭北側の「立入殿屋敷」とその北側の「松永屋敷」などの郭がある。郭の周囲には土塁が構築されるが、堀切はなく、ひな壇状に連なる。虎口は尾根の東側に 2 ヶ所あり、東側を正面として意識している。特に北側の虎口は防御を意識した構造となる。

「松永屋敷」で石臼や瓦・陶磁器などが表採されていることから、常駐できる建物があったと考えられる。谷を挟んで西側にある郭群は、北端部に虎口をもち、北側に石垣が構築される。郭は堀切で遮断され、「松永屋敷」がある尾根より防御性が高い。

信貴山城は、本格的な学術目的の発掘調査が行われたことはないが、地表面で確認できる郭や堀切などが良好に遺存し、信貴山城跡の全体的な構造を概ね復元することはできる。山城として利用された期間は 40 年ほどであり、現在残る遺構の大半は松永氏段階のものと考えられる。一時は畿内政治に大きな影響を及ぼすほどの実力者であった松永久秀の最期の居城であるという点でも高い歴史的価値をもつ。



信貴山城跡全景（東から）